



## 2021年度 大学説明会 HP 用 質 問 内 容 と 回 答

こちらは、2017年～2019年度筑波大学人文・文化学群比較文化学類大学説明会に参加された皆さまから寄せられた質問とそれに対する回答をまとめたものです(語彙等は適宜修正しています)。

質問内容は、1. 入学試験、2. 教育内容、3. 学生生活、4. 進路・就職、の4つに分類しました。また、同様の質問内容については適宜整理しました。

なお、回答に関する詳細な説明やデータにつきましては、以下のPDF、および筑波大学や比較文化学類のwebサイトをあわせて参照願います。

『2022比較文化学類への招待』PDF(以下『招待』と略する)

『2022年度 筑波大学入学案内』(『案内』)

<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/leaf>

『令和3年度(2022年度)入学者選抜要項』(『要項』)

[http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/list\\_guidebooks.html](http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/list_guidebooks.html)

『比較文化学類オープンキャンパス』PDF(学生作成、『OCパンフ』)

[http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/data/doc/1598501017\\_doc\\_48\\_0.pdf](http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/data/doc/1598501017_doc_48_0.pdf)



### ※関係公式webサイト

- 筑波大学 <https://www.tsukuba.ac.jp>
- 入試関連情報 <https://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/schedule.html>
- 「2021年度AC入試・特別入試ガイドブック」 <https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/leaf>
- 学生宿舎案内 <http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-healthlife/>
- 卒業生の進路統計 [https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page\\_id=303](https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page_id=303)
- 奨学金・修学支援 <https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/scholarship.html>

- 比較文化学類 <http://www.hibun.tsukuba.ac.jp>
- 「募集要項一覧」 [https://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/list\\_guidebooks.html](https://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/list_guidebooks.html)
- 学生宿舎・アパート情報 <http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/healthlife.html>
- 留学サポート <http://www.tsukuba.ac.jp/students/go-abroad/>
- キャリア支援室・学生部就職課 <https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career>
- 教職課程 <https://www.tsukuba.ac.jp/education/tt-programs>



## 1 入学試験

◎『要項』と大学公式HPの「入試関連情報」をよく読んでみてください。現在、コロナウィルス対応で入学者選抜試験に様々な変更が加えられています。以下のサイトで随時情報を公開していますので、確認をお願いします。  
[http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/news\\_undergrad.html](http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/news_undergrad.html)

Q1 AC入試について教えてください。特に重要視されるのはどんな点ですか。

令和4年度(2022年度)AC入試募集要項を参照願います。

A1

Q2 推薦入試について教えてください。

『令和4年度(2022年度)入学者選抜要項』(『要項』)を参照願います。

A2

Q3 大学入学共通テストについて、詳細を知りたいです。

ネット上で「大学入学共通テスト(新テスト)等について」などを参照願います。  
<https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/index.html>

A3



**Q4** 二次試験(前期日程)について、基礎問題と応用問題への対策を教えてください。

対策には個人差があると思うので、一概には答えられません。みなさんの先輩がどのような勉強をして合格したのかは、『比較文化学類オープンキャンパス』(学生作成、『OCパンフ』)に具体例が載っていますので、参考にしてください。

[http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/data/doc/1598501017\\_doc\\_48\\_0.pdf](http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/data/doc/1598501017_doc_48_0.pdf)

A4

**Q5** 比較文化学類の倍率はどのくらいですか。

『2022年度 筑波大学入学案内』(『案内』)や、ネット上の「入学試験実施結果」を参照願います。

<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/kekka>

A5



## 2 教育内容

◎『招待』（比較文化学類作成）と『OCパンフ』（比較文化学類の学生作成）に、みなさんの知りたいことの多くが書かれていると思いますので、ぜひお読みください。さらに詳しいことを知りたい方は、比較文化学類のホームページもご覧下さい（ホームページの「お問い合わせ」から質問することもできます）。

Q1

比較文化学類では具体的にどのようなことを勉強するのですか。他学類との違いは何ですか。

『招待』を手にとってください。そして、「比較文化学類で何を学ぶか」（2～3頁）のイラストをご覧ください。その説明が「比較文化学類のコスモス——6つの「領域」と17の「コース」」です。6つの領域の極めて簡潔な概要は3頁下をご覧ください。さらに各領域（コース）で学べる内容については14～30頁を、勉強（学問）の成果である卒業論文については8～13頁を参照願います。比較文化学類では、学際性・現代性・国際性を重視しています。これまでの学問分野の枠組みを重んじて学ぶ人文学類、国際的な発信に力を入れている日本語・日本文化学類とはここが異なります。その詳細は『招待』やウェブサイトを参照してください。

A1



Q2

4年間の教育課程を教えてください。

『招待』の「入学から卒業まで 年間スケジュール」(6～7頁)を参照願います。

A2

Q3

比較文化学類では授業選択の自由度が高いと聞きましたが、どういうことですか。

比較文化学類の学生は、開設科目の中から、履修要覧の規則に準拠した上で、科目を履修します。まず必修の基礎科目、専門基礎科目を履修しますが、それらの多くは必修かつ選択という形で履修します。また専門科目は、300近くある科目の中から42単位以上を選択して履修します。そのうち、演習・実習として開講された科目を8単位以上、所属する領域(コースよりは幅が広い学問の範囲です)の科目を10単位以上、履修します。また専門・関連科目の一部は、他の学類の科目も含め、規則に従って一定単位数が卒業単位になります。以上からも明らかなように、比較文化学類の科目の履修についていえば、自分自身が決めて選択する科目が多くあり、自由度が高いですが、どの科目を履修するかを決める思慮が必要とされます。比較文化学類では、3年次に、それぞれが卒業論文を執筆する領域・コースを決めますが、その所属領域から定められた単位を履修する他、自身の関心に従って、各領域・他学類の授業を幅広く履修することが可能です。例えば、日本の宗教文化に関心がある場合、日本研究コースや文化地理学コース、文化人類学コース、比較宗教コースの授業を学ぶことによって幅広い視野と深い知見を得ることが可能です。

A3



**Q4** 研究内容によっては、複数の分野の学問をまたいで学ぶことができますか。

できます。学類内の他領域・他コースの開設科目はもちろん、他学群・他学類の開設科目も卒業要件に含めることができます。

**A4**

**Q5** 他学類の聴講、単位取得などは認められていますか。

認定されます。当学類では、各自が選択した領域・コースの授業科目以外に他領域の授業科目も卒業に必要な修得単位数に含めることができますし、他学群・他学類の授業科目も関連科目等として履修することができ、決められた一定単位数までは卒業単位に加算することが可能です。また、比較文化学類で指定されたものであれば、他学類の専門科目を当学類の専門科目として加算することもできます。選択の自由度は高く、理科系の科目では、例えば、生物資源学類の農村社会学、地球学類の人文地理学・自然地理学、社会工学類の都市計画などの科目を履修する例が見られます。芸術や社会科学・心理学などの科目を履修する学生もいます。関心があれば、筑波大学が有する、国内のみならず国外にも誇れる学問世界のすべてが皆さんを受け入れてくれます。

**A5**

**Q6** 日本文学コース、文化地理学コース、情報文化学コースの教育内容について教えてください。

『招待』を参照願います。

**A6**



Q7

留学制度とサポートについて教えてください。

A7

学生部の留学相談窓口がサポートを行っており、様々な経済的支援のプログラムもあります。まずは『案内』、大学ホームページの「国際交流」を見てみてください。

筑波大学は全世界に約170校の協定校があり(うち比較文化学類が関係している協定校は80校以上)、これらの大学に留学する場合は「交換留学」の扱いとなります。期間は原則1年以内で、留学先の成績は所定の基準を満たしていれば60単位まで算入されます。「留学」する場合はその期間も在学期間に含まれ、留学先での取得単位の卒業単位への読み替え、留学先授業料の不徴収、奨学金の取得など、さまざまな利点があります。比較文化学類からは毎年5名程度が各自の意志で「留学」しています。3年生の後期から留学する学生が多いのですが、各人の学修計画にあわせて留学することができます。留学先は東アジア、東南アジア、北米、ヨーロッパ、ロシア、などが目立ちます。

留学の準備についての詳細は『招待』をご参照ください。さらに、比較文化学類で作成した留学を志す人のための詳しいパンフレットがあります。学類のホームページからダウンロードできますのでぜひ参照してください。

<http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/page/page000526.html>

また、夏期休暇等を利用した短期語学研修プログラムもあります。『招待』5頁や学類ホームページの「学びの場」>「留学」をぜひご覧下さい。具体的な情報が掲載されています。



Q8

英語やその他の外国語を、どの程度のレベルまで学べますか。

比較文化学類の現行制度では、標準として1年次・2年次においてグローバルコミュニケーション教育センター開設の第1外国語(英語)、初修外国語(ドイツ・フランス・スペイン・ロシア・中国・朝鮮語)を学修します。それに加えて、比較文化学類開設の第1専門外国語として2年次に専門英語I、3年次に専門英語IIを、また、初修外国語で学んだ言語やラテン語・ギリシャ語・インド古典語を第2専門外国語として学修します。いずれも主としてコミュニケーション能力の養成を目的にしており、必修単位数が決まっています。これ以外に、専門科目の中で外国語を使用する場合があります、そこでも語学力をさらに向上させることができます。英語については、カナダのプリンス・エドワード島大学に短期留学する比較文化国際研修があり、多くの学生が履修しています。

A8



プリンス・エドワード島大学(カナダ)にて





Q9

教員免許は取得できますか。

できます。『招待』の33、38頁や、『案内』を参照願います。

A9

Q10

卒業論文について、扱えるテーマや仕上げまでのプロセスを教えてください。

『招待』の8～13頁や、『案内』を参照願います。

A10



## 3 学生生活

◎『招待』の他に『案内』もお読みください。現役比文生が作成した『OCパンフ』も必読です!

Q1

寮は希望すれば誰でも入れるのですか。地元出身ではない学生はどうしているのですか。金銭面についても教えてください。

A1

学群の新入生は優先的に入居できるように配慮されていますが、入居希望者が計画数を上回った場合は、大学近隣からの通学可能者は入居できないこともあります。入居できる期間は入居日から翌年3月31日までですので、次の年度も入居を希望する場合は必ず本人による申し込みが必要です。翌年度の入居者募集は毎年10月頃行います。学生宿舎は、大学構内の4地区に設置されているため、徒歩や自転車での通学がしやすい場所にあります。玄関セキュリティシステムが設置され、また宿舎管理事務室には夜間でも管理員がおりますので、困ったことがあったら連絡ができます。

学生宿舎の種類、設備については、「学生宿舎のご案内」をご覧ください。

<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-healthlife/>

入居後に必要な経費は、宿舎費月額19,410円(未改修棟は15,380円)と個室電気料(実費)、コインシャワー(9分100円/回)、洗濯・乾燥機(各1回100円)です。グローバルヴィレッジ(グローバルヴィレッジは、平成29年4月から運用が開始された日本人学生と留学生の混住シェアハウスタイプの学生宿舎です)の場合は、宿舎費月額35,800円と個室電気料(実費)及びユニット内共用部の光熱水料(全ユニットの総額を全入居者で等分して負担)、洗濯・乾燥機(各1回100円)です。



**Q2** 電車やバスでの通学について教えてください。

つくばエクスプレスで首都圏から通う学生は一定数います。一概には言えませんが、通学は毎日のことでもあり、無理のない範囲で考えてください。一年次は低廉な寮に入居できるので、とりあえず入寮して2年生になる時点でどうするか考えるのもよいでしょう。

**A2**

**Q3** サークル活動について教えてください。

本学には、美術・写真・演劇等の表現系団体、能楽・茶道等の古典芸能系団体、運動系団体、ボランティア系団体、学術系団体、音楽系団体などさまざまな公認学生団体が約250あります。学生は、興味や関心に応じて、複数の団体に所属することができます。学生団体の一覧や各団体のWebサイトは以下のサイトからご覧いただけます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/unions/circles.html>

**A3**



## Q4 奨学金について教えてください。

本学が取り扱っている奨学金制度としては、筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」(給付奨学金)、日本学生支援機構(JASSO貸与奨学金)、地方公共団体・民間奨学団体(主に給付奨学金)等があります。なお、詳細については、本学ホームページのキャンパスライフの奨学金・修学支援(<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/scholarship.html>)をご参照ください。

A4

## Q5 アルバイトについて教えてください。

全学平均で約76%の学生が何らかのアルバイトをしています。定期的なアルバイト約47%、臨時的なアルバイト約14%、両方約15%。飲食店での業務が最も多く次いで塾講師・添削指導、飲食以外の軽労働(調査・配達・販売)、一般事務、特殊技能(翻訳・通訳・スポーツコーチ等)、家庭教師と続きます。(平成29年度学生生活実態調査より)

A5

## Q6 大学生生活の悩みや心配事を相談できる場所がありますか。

あります。キャンパスには複数箇所、総合相談窓口が設置されています。この窓口は、学生のみなさんに、ちょっと困ったことがあったら気軽に相談に立ち寄ってもらうための場所で、カウンセラーが相談を担当します。また、保健管理センターでも、学生相談、精神保健相談を受け付けています(予約制)。

A6



## 4 進路・就職

◎筑波大学全体の進路・就職状況については「卒業生の進路統計」([https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page\\_id=303](https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page_id=303))を、就職支援についてはキャリア支援室・学生部就職課(<http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/>)を参照ください。

### Q1 主な就職先について教えてください。

大まかな傾向としては、企業への就職が6割以上を占めます。マスコミ・出版を始めその内訳はさまざまです。ほかには、近年は公務員(国家公務員のほか、とくに地方公務員)になる人が増えて来ました。高校などの教員となる人も毎年数名います。大学院に進学する人も一定数います。詳細は『招待』38～40頁および『案内』を参照願います。

A1





Q2

就職支援がどれほど充実しているのか教えてください。

筑波大学では、全学的なキャリア・就職支援組織として、スチューデントプラザ内にキャリア支援室を設置し、就職課と連携して学生のキャリア支援や就職活動全般に関する支援を行っています。また、就職課では年間を通じて、「就職ガイダンス」「OB・OG懇談会」「公務員関係ガイダンス」「教員関係ガイダンス」「公務員採用模擬試験」「教員採用模擬試験」などを実施しています。とくに、毎年3月に3週間にわたって開催される「筑波大学学内企業説明会」では、筑波大生を採用したいと考える大手有名企業を含む700社以上の企業が参加し、学生たちに大変好評です。

比較文化学類では、インターンシップ科目を2019年度より新たに開設、単位化し、学生のみなさんのインターンシップ活動やキャリア支援に役立てています。また、キャリア支援室と協力し、学類独自のキャリアガイダンスを実施したり、学類HPに「就職と進路」「キャリア支援」のコーナーを開設したりしています。また、国内の第一線で活躍するキャリアコンサルタントを招いて比較文化学類生を対象とした親密な就活相談会を行うほか、比較文化学類の先輩OB・OGと学生との懇談会(ホームカミングデー)を実施したり、就職活動の経験を4年生の先輩が後輩に語る座談会を企画したりしています。また、筑波大学には、東京教育大以来の卒業生ネットワークや、茗溪会というOB・OGによる同窓会組織があり、在学生や卒業生をサポートする様々な活動を行っています。

A2



Q3

比較文化学類に入ることによって就職に有利になる職業や、逆に、就職しにくくなる職種はありますか。

A3

『価値ある大学2019年版-就職力ランキング』(日経キャリアマガジン特別編集、2018年6月)によると、国内大手企業の採用担当者へのアンケートで、「最も採りたい大学」ランキング第一位は筑波大学です。

なぜ筑波大学の学生が高い評価を受けているのか、そのポイントは、狭い専門知識だけではなく学際的に学んで広い視野を持っていること、人間関係を作る力が優れていることなど多岐にわたります。ですが、それらのポイントはすべて、筑波大学で四年間を過ごすことで「自然に」身につけられるコンピテンシーです。筑波大学が目指している「学際的学び」は今後いっそう進められる予定です(しかも、カリキュラムや学修案内などをみても明らかのように、筑波大学で最も学際的な学びをサポートしているのは比較文化学類です)、加えて、つくばという一種の「学生の町」で、地元の人たちに見守られながら自分たちで協力し自分たちで問題を解決する濃密な四年間を過ごすことが、みなさんを大きく育てるという面も外せないでしょう。いずれにしても全国の企業から注目される「筑波大生コンピテンシー」を身につけられることは、間違いなく「就職に有利」です。



**Q4** 比較文化学類ではどのような資格が取れますか。

『招待』の33、38頁や、『案内』を参照願います。

**A4**

**Q5** 大学院に進む学生は多いのですか。

人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群をはじめとする大学院に進学し、研究を続ける学生たちはかなりおります。哲学・思想、宗教学研究であれば人文学学位プログラム哲学・思想サブプログラム、歴史や人類学研究であれば歴史・人類学サブプログラム、文学研究であれば文学サブプログラム、現代文化研究であれば現代文化学サブプログラム、言語研究であれば言語学サブプログラム、英語教育であれば英語教育学サブプログラム、国際的な日本研究であれば国際日本研究学位プログラム、文化地理学研究であれば理工情報生命学術院生命地球科学研究群地球科学学位プログラムです。また、中等教育の教員を志望されるのであれば、人間総合科学学術院人間総合科学研究群教育学学位プログラム次世代学校教育創生サブプログラムにも進学できます。大学等研究機関の研究者や博物館学芸員・教員などの高度専門職など、それぞれの研究関心に応じて、大学院進学への門戸は大きく開かれています。

**A5**



2月の就職相談会